

ぼうじぼ、わらでっぼう

子どもたちが、「ぼうじぼ当たれ、そば当たれ」などとかけ声をかけながら、わらで作った棒^{ぼう}※1で地面をたたいて歩き、各家を回ります。その年の豊かな実りへ感謝し、来年の五穀豊穡^{ごこくほうじょう}※2を祈る行事です。

※1 わらで作った棒=県の南部では「わらでっぼう」、県の中央部では「ぼうじぼ」、県の北部では「豊年棒（ほうねんぼう）」という呼ばれ方があります。

※2 五穀豊穡=作物が豊かに実ること。



ぼうじぼでたたく

(平成 28 年さくら市蒲須坂 県立博物館提供)

～とちぎ人の想い～

- ・声の掛け合いが楽しかったです。
- ・ご褒美がほしくて、大きな声でさげびました。

自然の恵みに感謝して、
地域の人ともっと仲良くなれる、
すばらしい行事まるね～。



〈ぼうじぼの説明〉

県内各地で十五夜や十三夜などに行われてきました。かけ声は、地域によっていろいろあるようです。

「十五夜のわらでっぼう、大麦当たれ、小麦当たれ、三角畑のそば当たれ」、「ぼーちぼつたれ山芋」などと唱えながら家々を回ります。

地面を打つことによって、作物に害をあたえるモグラを退治できるといわれており、近所の家をまわると、ご褒美にお菓子やお駄賃がもらえます。

打ち終わったら、柿の木にかけておき、たくさん柿が実ることをお祈りしました。



〈下野かるた〉『つ』より